

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 181 号	2016年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—7月31日（日）8月6日の親子自然観察隊の「水棲動物観察」のために16時から須賀河内川をビオトープそばから清瀬峡まで遡上して安全の確保を調査して子供たちが安心して観察できるように、イバラやヨシなどを刈って通路を確認しました。参加された方は、関根・管・原田・前田・工藤・原谷会員でした。

—8月6日（土）親子自然観察隊は、水棲動物観察・須賀河内川で、ヘルメット・ライフジャケットを着用し網とカゴを持った子供たちに親や山大の学生と会員がサポートして、ビオトープそばから清瀬峡まで、沢登りをしました。魚や水生昆虫などいろいろと捕まえました。絶滅危惧種のアカザも見つけました。親11名、子14名、大学生7名、会員13名が参加しました。用意されたソーメンとスイカを食べてもらって解散しました。

—8月6日（土）うだるような暑い中、厚東川中学校生徒10名が活動に参加してくださいました。稲作体験の内、稲作には害をするイナゴ・バッタ類の捕獲をしていただきました。おおよそ60%～75%の駆除が出来たのではと思います。田圃の中を素足で入ることで手押し除草機と同じ役目を果たし土壌に酸素を供給でき、今後の生育が楽しみです。中干しも終り散水を開始し、今から幼穂形成期となります。休憩後、蓮田の青ミドロの除去も、引率の伊達教頭先生と宮本先生も加わりきれいな蓮田となりました。

—8月7日（日）フジときららネットのこどもエコクラブが「ビオトープで遊んじゃおう！」の行事をされました。朝10時にビオトープへ集合し、危ない生き物とエコアップの説明をして、ため池に入ってもらって、エコアップとして、アシカキ・クログワイ・カンガレイを主に除去してもらいました。昼食の後で、ビオトープの池やそばの川に入って、魚や水生昆虫を主に捕まえてもらいました。カマツカ（19cm）、アカザ（11cm）、ドンコ（10cm）、オヤニラミ（7.5cm）なども捕まえました。名前を確認してそれぞれの場所に返してやりました。15時に解散しました。クラブは、こども15名、スタッフ9名で、会から管・前田・原谷会員が講師として参加しました。

—8月21日（日）田んぼの周囲の草刈りと電気柵の設置、観察路（ため池～草原地帯）の草刈り、草原や溜池角の堆積草の焼却を行いました。会員11名の参加がありました。参加された皆様、猛暑の中お疲れ様でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

- 9月4日（日）維持管理・草刈り
- 9月10日（土）親子自然観察隊（秋の昆虫）

3. 来訪者の声

- 7月17日：神戸から来ました。この環境を守っておられる方々に敬意を抱きます。うちの職場のビオトープは、「人間はビオトープに手を加えてはいけない」の固い守りのもと“ドブ川”“泥沼”と化しています。

4. 会員の声-「フジときららネットのこどもエコクラブ」 （原谷 一誠 記）

午前のエコアップはため池に入って一部の草を除去してもらいましたが、底の泥に足をとられ手こずる子、草がすっと抜けて尻餅をつき腰まで水に浸かる子など賑やかに楽しく作業してくれました。一部ですが、開放空間を確保できました。

昼食のソーメン・むすび・スイカを食べて水辺の生き物観察です。池よりもやはりこの時期川が人気で、東屋からナツツバキそばまで川を下り、カマツカ・ドンコ・オヤニラミなどを捕まえていました。次にビオトープ下の堰に行き、上流では全身水に浸かりながら網を入れて、小さなオヤニラミも見つけました。堰の下流ではアカザ・サワガニなどもみつけました。厚東川から遡上してきた生き物はこの堰で遮断されますが、どうやってこの堰を登るのでしょうか。アカザはナマズ目アカザ科で、山口県では絶滅危惧Ⅱ類で、図鑑では山口県ではアカナマズとも言っていると記載されて、子供が赤いナマズを捕まえたと言っていた。

観察できた生き物は、カマツカ、アカザ、カワムツ、ドンコ、オヤニラミ、ドジョウ、タイコウチ、コオイムシ、ハイイロゲンゴロウ、マツモムシ、ヌマエビ、サワガニ、ギンヤンマのヤゴ、コオニヤンマのヤゴ、ヌマガエルのおタマジャクシなどです。



ため池のエコアップ



ビオトープ下の川



こどもエコクラブの集合写真



19cmのカマツカ

5. 親子自然観察隊 「水棲動物観察」

観察—1 親子自然観察隊 隊長 管 哲郎 記

連日暑い日が続き夏真っ盛りの一日、8月度の行事“川の探検”を6日に行いました。毎年リーダーを関根会員にお願いしており、原谷会員も同行して補佐していただきますので全く心配することなく、今年も山口大学学生諸君をはじめ、親子ともども楽しんでいろんな魚を採集してくれました。日照り続きの川の水は思った以上に冷たかったとのことで意外でした。

観察隊としても暑い夏の盛り、隊員の子供たちに冷たいソーメンをふるまうことに決めましたが、“イナゴ駆除”という保全作業に来ていただいた厚東川中学校の生徒と先生や参加された方々全員にも、冷やしたスイカとともに冷たいソーメンをお昼に食べていただきました。十分な量は用意できませんでしたが、冷たいお茶やコーヒー、ポカリスエットなども一緒にふるまい、のどの渇きをいやしていただきました。

川の探検に参加できなかった小さなお子さんたちは、須賀河内川の安全な場所に案内して山口大学の女子会員にもお手伝いをお願いし、しばらく親子ともども遊ばせました。

気温32度以上の炎天下の中、事故もなく全員無事に行事を終え、楽しく帰っていかれたようで、お世話された方々の大変なご苦勞がありました。終わった後はさわやかな気分でした。お世話いただいたみなさんには、大変なご苦勞をおかけいたしました。おかげさまで素晴らしい8月の行事を終えることができました、ありがとうございました。



探検出発前



若い隊員たち



ソーメンの準備



採集した魚類の説明

観察—2 沢登りリーダー 関根 雅彦 記

本日は親子自然観察隊、須賀河内川の水棲動物の観察です。梅雨明け後晴天続きで、川の流量は一週間前の下見の時よりずいぶん少なくなっていますが、暑い日にピッタリのイベントとなりました。子供13人、会員・保護者・助っ人の大学生など大人14人で東屋横から川に入ります。例年はスタート地点が深く、冷たさに喚声があがるのですが、今年は梅雨の間に堆積した砂で浅くなっており、落ち着いたスタートです。まず砂地にいるシマドジョウを

探しますが見つかりません。砂地を過ぎ、用水が落ちてくる付近のちょっとした岩場でヨシノボリを捕ったあと、ヨシ帯を抜けると最初の取水堰です。堰下の淵にはいかにも魚がいそうなんですが、網を投げて何もかかりません。気を取り直して登り始めると、淵は例年よりずいぶん深く、ここで「冷たッ！」と喚声があがります。

最初の関門を突破し、冷水で一気にテンションが高まったところでカワムツなどが多いトロ場です。みんなで魚を捕りながら上がっていきます。父滝が近づき、浅くなった礫場でヨシノボリを捕っていると、絶滅危惧Ⅱ類のアカザをGet！その勢いで、父滝下の淵でも期待を膨らませて投網を打ちましたが何もかかりません。なんで？（あとで大学生が打ったら、カワムツが少しはかかったようです。）子供たちも網を投げたあと、いよいよ滝登りです。淵は深いのに水位は例年より心なしか低く、最初の一步がなかなか難しい。ロープを垂らしましたが、みんな結構苦労して登りました（特に大人！）。母滝も慎重にのぼり、その上のトロ場は泳ぎもおりまぜながら遡上します。最後の林間の溪流部は岩がたいへん滑りやすく、慎重に慎重に、それでも転んだりしながらも、全員無事にゴールしました。

ビオトープでは、残った人たちが仕掛けておいてくれたワナを回収し、捕れた魚を確認したあと、そうめんとスイカで心地よい疲れを癒し、空腹を満たしました。皆様、お疲れ様でした！

遡上中に捕れたのは、アカザ、カワムツ、ヨシノボリ、ドンコ、サワガニ、ヌマエビ、スジエビ、カワニナなど、ワナでとれたのは、カワムツ、イトモロコ、ムギツク、ドンコ、絶滅危惧ⅠBのオヤニラミなど。池のフナと砂底のシマドジョウ、カマツカが捕れていないことを除けば、種類は例年並みですが、カワムツ以外の採捕数が少ないように感じられることが気になります。今後も継続して観察していく必要があります。



最初の堰で投網



カカ滝を登る



清瀬峡の終点で集合写真



厚東川中学校のボランティア

親子自然観察隊の感想

★仲嶋（母）

初めての川での「生き物探索」そして初めて「さわ登り」ととても楽しかったです。観察隊では初めての体験が色々できて、子供達はもちろん、私もいろんな経験をすることができ毎回楽しみにしています。ありがとうございました。

★きむらりょうすけ

沢登りをして、深いところがこわかったです。ご飯がおいしかったです。中学生がバッタをいっぱい取っていたので、ビックリしました。

★木村ゆな

いろんな魚が見れたりしたので、とても楽しかったです。大きい魚もいたから、ビックリしました。

★木村（母）

二俣瀬の川に、あれだけたくさんの生き物が生息していることに驚きました。沢登は初めての体験でしたが、テーマパークのアトラクションよりもリアルで、とても面白かったです。昨今、大人は子どもたちに「危ないから、ダメ」と言いがちですが、観察隊では、ありのままの自然を子どもたちに体験させてくださるので、とてもありがたいなと思いました。また、来年も参加してみたいです。

★下川航平

岩に苔がいっぱいついていて滑ってこけて痛かったです。そうめんが柔らかくておいしかったです。

★下川拓実

カワムツが多いと思いました。他の魚も見みたいです。

★下川（母）

晴天が続いていたのに水量が案外多いと思いました。子どもたちは魚も取れて喜んでいました。ありがとうございました。

★永富花音

魚を捕まえるのが楽しかったです。『アカザ』が取れてびっくりしました。

★永富利津子（母）

何日も前から楽しみにしていました。当日も大変楽しかったようです。ありがとうございました。

★川口颯太

深いところがあつてびっくりしたけど、楽しかったです。魚がとれてうれしかったです。

★国平清咲

魚を捕まえたり、深いところに網投げを初めて体験して想像以上に重くてびっくりしました。いろんな魚や生き物にふれあえて、生き物が、ほんとに大好きなんだなと実感しました。

★国平（母）

小さい子たちで、浅い所で魚にふれあえたり、水遊びができました。絶滅が心配されているトンボも見ることができたり、魚がヌメヌメしてるう〜と小さい子たちは大喜びでした。そうめんも美味しくて、普段きゅうりが苦手な子供も外でみんなで食べると美味しいと喜んでいました。家族みんなで楽しむことができました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(8) オオモモブトスカシバ *Melittia sangaica*

鱗翅目 スカシバガ科 SESTIIDAE

「ガ」の仲間、トンボのような透明な翅をもっており、「ガ」とは思えない姿をしていますので、最初はなんだろうと戸惑いました。体長 15mm程で、北海道から奄美諸島まで広く分布します。夏に現われますし、カラスウリがあれば近くで見られるはずです。羽化したばかりだと近くの葉に止まってあまり動きませんので、昼間でも見つけやすいと思われます。スカシバガ科の仲間にはそのほかに“モモブトスカシバ”“ブドウスカシバ”がいますが、体長 30mmもあり翅の透明な“オオスカシバ”“クロスキバハウジャク”などはスズメガ科の仲間です。



オオモモブトスカシバ・飛翔前



オオモモブトスカシバの休止



ブドウスカシバ



クロスキバハウジャク

7. 会よりの連絡事項

今年は猛暑のおかげで、稲作は豊作に向かって順調に進んでいます。今年はイノシシの痕跡もなく、被害防禦の電気柵は取付なくて済むものと思っていましたが、21日の活動日の朝、ため池縁や湿地帯中を掘り起こされていた事を確認しました。

早速電気柵を張り付けて、田んぼ周辺のみプロテクトしました。日中は電源が入りませんが、夕方(日没)から朝方(明るくなるまで) 高圧電器が流れていますので触らないでください。

8. 編集後記

「今年の夏は暑いですね、皆様お身体大丈夫ですか？」と書き出した、昨年8月の編集後記でしたが、何言ってるの昨年の俺、今年の方が絶対暑い、毎日30度越えです、会社の温度計37度表示も出てましたもの。ほんとに暑くてとうとう買いました「エ・ア・コ・ン」無かったのとビックリされますが、無かったのです、それが何か・・・御蔭で涼しい部屋で編集後記が書けました。

(若林 正治 記)